

第72回青少年読書感想文全国コンクール応募要項(抜粋)

対象図書

○課題読書
主催者の指定した図書（課題図書）。
同一部内における学年指定はありません。

○自由読書
自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問いません。
*教科書、副読本、読書会用テキスト類またはこれに準ずるもの、雑誌（別冊付録を含む）、パンフレット類、日本語以外で書かれた図書および課題図書は対象としません。ただし、課題図書であっても該当の部以外であれば、自由読書として応募することができます。
*点訳・音訳を利用した読書の場合は、その理由および原本、点訳・音訳したものの情報を添えてご応募ください。

応募資格および区分

応募者の年齢は満20歳まで（2006年4月2日以降に出生の者）とします。
応募者の在籍する校種等によって、応募を次の5部10区分とします。

- ①小学校低学年の部（1、2年生）……………課題読書・自由読書
- ②小学校中学年の部（3、4年生）……………課題読書・自由読書
- ③小学校高学年の部（5、6年生）……………課題読書・自由読書
- ④中学校の部……………課題読書・自由読書
- ⑤高等学校の部……………課題読書・自由読書

*特別支援学校はそれぞれの対応する部に、中等教育学校および中高一貫校の「前期課程」は中学校の部に、「後期課程」は高等学校の部に、義務教育学校はそれぞれの学年に対応する小学校の各部および中学校の部に応募してください。

用紙・字数

- ①原稿用紙を使用し、縦書きで自筆してください。原稿用紙の大きさ、字詰めに規定はありません。
- ②文字数については下記のとおりです。

小学校低学年の部（1、2年生）……………本文 800字以内
小学校中学年の部（3、4年生）……………本文 1,200字以内
小学校高学年の部（5、6年生）……………本文 1,200字以内
中学校の部……………本文 2,000字以内
高等学校の部……………本文 2,000字以内

さいたま市はB4サイズの規定有り
低学年 240字詰め
中学年以上 400字詰め

- ③句読点はそれぞれ1字に数えます。改行のための空白が所は字数として数えます。
- ④題名、学校名、氏名は字数に数えません。

応募作品

- ①応募は日本語で書かれた作品に限ります。
- ②応募は課題読書、自由読書それぞれに一人1編ずつ応募できます。
- ③応募は個人のオリジナルで未発表の作品に限ります。他の類似コンクールとの二重応募は認めません。
- ④盗作や不適切な引用等があった場合、審査対象外になることがあります。
- ⑤入賞・入選作品は理由を問わず返却しません。

応募締め切り 校内〓切8月26日（水）厳守

締め切りは都道府県により異なります。詳細は在籍校の図書館の先生または、青少年読書感想文全国コンクール Web サイトに掲載の【問い合わせ先】にお問い合わせください。

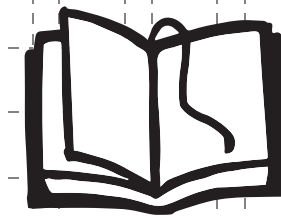
作品と氏名等の使用・公表と著作権 ※ご了承のうえ、ご応募ください。

- ①応募作品・題名・対象図書名、および応募者氏名・学校名・学年は、公表することがあります。
- ②入賞・入選された方の応募作品・題名・対象図書名、および応募者氏名・学校名・学年は主催者の刊行物や Web サイトで公表します。また、テレビ、ラジオ、雑誌、書籍、教材等各種媒体で使用・公表することがあります。
- ③入賞・入選作品の著作権は、賞の確定と同時に主催者に譲渡されます。ただし、本人および在籍校の利用は妨げません。

作品提出

本コンクールは学校を通じてご応募いただくコンクールです。在籍校が本コンクールに参加することによって応募が可能となります。したがって、個人の方からの直接応募は受け付けておりません。なお、在籍校が本コンクールに参加しているか不明な場合は、各在籍校へご確認ください。

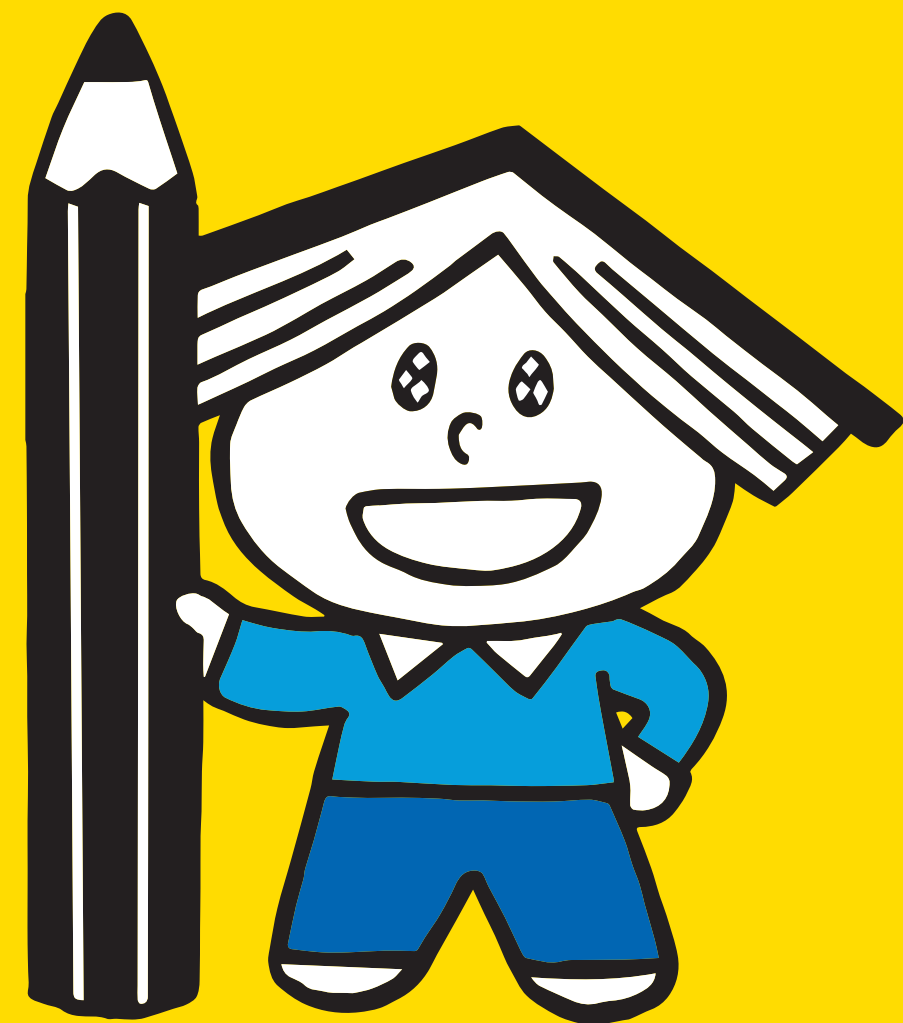
※詳しい要項は青少年読書感想文全国コンクール Web サイトをご覧ください。
公式ホームページ <https://www.dokusyokansoubun.jp>



読書感想文



Q&A



伝説の感想文は、
キミから生まれる。

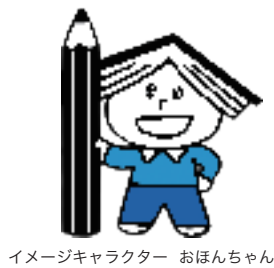
- 主催 公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社
- お問い合わせ 青少年読書感想文全国コンクール事務局
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館 毎日企画サービス
TEL 03-6265-6813（土日祝日を除く平日午前10時～午後5時まで）

<https://www.dokushokansoubun.jp>



読書感想文 Q & A

「読書感想文をどうやって書いたらいいかわからない」
「どんな本を読んだらいいかわからない」
そんな声にお答えします。
さあ、読書感想文にチャレンジしよう！



イメージキャラクター おほんちゃん

Q なぜ、本を読むことが大切なのか。

A 一冊の本が、人生を変えてしまうことがあります。本の中で旅をしたり恋をしたり、冒険をしたり……。人は本の中でいろいろなことを体験できます。登場人物と自分の生き方や考え方を比べて、共感したり反発したりします。また、本を使って、疑問に思ったことを解決するために調べることもできます。本を読んで新しいことを知ると、びっくりしたりうれしくなったりします。本は、人の心を成長させてくれ、いろいろなことを教えてくれる友だちです。

Q 「課題読書」・「自由読書」って何ですか。

A 読書感想文コンクールの主催者が指定した本を読んで書くのが「課題読書」です。本の専門家の先生方が、新しく出版されたたくさんの本の中から、学年に合わせて、多くの感動を得られたり新たな知識を得られたりする本を、フィクション、ノンフィクション、外国作品など幅広く選んだものです。ぜひ読んでみてください。一方、自分で読みたい本を自由に選んで読書感想文を書くのが「自由読書」です。フィクションでもノンフィクションでもかまいません。読書感想文は「読書の幅」を広げるチャンスです。ふだん物語や小説をよく読む人は科学の本にチャレンジしたり、スポーツの本をよく読む人は伝記を読んでみてください。

Q どんな本を読んだらいいのかわかりません。教えてください。

A 思いっきり楽しめたり、自分を見つめなおしたり、新しいことを教えられたり……。自分の心を突き動かしてくれる本が、その人にとっての「良い本」だといえます。自分に合った、心を動かされる本を探してみましょう。迷ったら、自分のことをよく知っている人、たとえば家族や担任の先生、教科の先生、部活の顧問の先生に相談してみましょう。「本の専門家」の図書館の先生に相談してもいいでしょう。友だちと本を紹介し合うのもいいですね。

Q 読んだ本の本文や解説などを引用してもいいですか。

A 読書感想文は、本を読んだ自分の思いや心の動きを中心に書くものですから、できるだけ自分のことばを使って書くようにしましょう。確かに解説やあとがきなどは、本の世界をより深く理解するために参考になることがあります。ですから、場合によっては引用する必要が出てくるかもしれません。引用する場合は、一字一句本文と違わないように書いて、必ず「」（カギカッコ）でくくりましょう。

Q 読書感想文は、何のために書くのですか。

A 書くことによって考えを深められるからです。読書感想文を書くことを通して思考の世界へ導かれ、著者が言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりできるのです。ですから読書感想文は「考える読書」とも言われます。また、どんなに強く心を動かされても、時がたてばその記憶は薄れてしまいます。読書感想文は自分自身の記録です。読み返すことによって、いつでも「感動した自分」に出会うことができるのです。

Q 何をどう書けばいいかわかりません。どうすればいいですか。

A 本を読んで自分がどこに感動したのか、なぜ感動したのかを考えましょう。そしてもう一度本を読んでみましょう。自分の生き方や経験と本の世界とを照らし合わせると、いろいろなことが見えてきます。感じたこと、思ったこと、連想したことなどを忘れないうちに全部メモしておきましょう。そうしたら、順番を入れ替えたり内容を補ったりして、どう書けば自分の心の動きにぴったりするか、それがうまく人に伝わるかを考えましょう。先生や家の人と相談してみるのもいいでしょう。そうするうちに何をどう書けばいいのか、自分が一番言いたいことは何なのかははっきりしてきます。書き終わった時には、それまでとはどこか少し違った自分になっていることに気づくはずです。

Q 題名はどうつけたらいいですか。

A 本を選ぶとき、本の題名を見ながら「おもしろいかなあ？」とか「読んでみようかなあ？」と考えることはありませんか。題名一つただで「読んでみたい」とか「読みたくない」とか思ってしまう。魅力的な題名は人をひきつける力があります。せっかく書いた読書感想文ですから、人が読んでみたくなるような題名を考えましょう。自分が一番感動したことやもっとも言いたいことの、中心となることばを考えて題名にするといいでしょう。

Q 字数は規定の字数以内なら何字でもいいですか。

A 本を読んだ感動や本を読んだ考えたことを、人に伝えるように十分に書き表すためには、ある程度のことばの量が必要です。心の中のおふれる思いを、たくさんのことばを使って表現してみましょう。字数の規定はいわばことばで表現できるグラウンドの広さです。せっかく広いグラウンドが用意されているのに、それを自分で狭くする必要はありません。規定の字数をなるべくいっぱい使って、思いっきり読書の感動を表現してみましょう。

第72回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書

小学校の部
1・2年生



まこちゃんとコトバロボ
村上しえ子 作
たんじあきこ 絵
定価 1,540円(本体 1,400円)
ISBN978-4-333-02944-0
〈佼成出版社〉



なにがいいことあった？
ミーシャ・アーチャー 作
石津ちひろ 訳
定価 1,870円(本体 1,700円)
ISBN978-4-7764-1147-5
〈BL出版〉



ララのまほうのことば
グレースー・ジャン さく
やのあやこ やく
定価 1,980円(本体 1,800円)
ISBN978-4-7692-0514-2
〈工学図書〉



たねはいのちのおわりとはじまり
鈴木 純 著
定価 1,540円(本体 1,400円)
ISBN978-4-89309-747-7
〈ブロンズ新社〉

小学校の部
3・4年生



まだまだここから
宇佐美牧子 作
酒井 以 絵
定価 1,540円(本体 1,400円)
ISBN978-4-591-18596-4
〈ポプラ社〉



それからぼくはひとりで歩く
アリシア・モリーナ 作
星野由美 訳
犬吠徒歩 絵
定価 1,595円(本体 1,450円)
ISBN978-4-593-10534-2
〈ほるぷ出版〉



おいしいお米をつくりたい！
:ゆうちゃん、小学生で農家に弟子入りしました
谷本雄治 著
定価 1,980円(本体 1,800円)
ISBN978-4-8113-3321-2
〈汐文社〉



宇宙でウンチ
:みんなの知らない宇宙トイレのひみつ
A・ボンドー＝ストーン、C・ホワイ特 作
L・ケンセス 絵
千葉茂樹 訳
定価 1,650円(本体 1,500円)
ISBN978-4-7515-3236-2
〈あすなる書房〉

小学校の部
5・6年生



ポジション！
高田由紀子 作
定価 1,650円(本体 1,500円)
ISBN978-4-265-84067-0
〈岩崎書店〉



リヒト！
インウエミホコ 作
定価 1,650円(本体 1,500円)
ISBN978-4-580-82672-4
〈文研出版〉

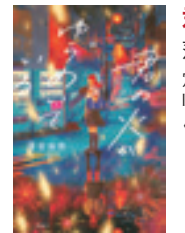


ミシュカ
エドワルト・ファン・デ・フェンデル、
アヌッシュ・エルマン 作
アネット・スカープ 絵
野坂悦子 訳
定価 1,815円(本体 1,650円)
ISBN978-4-86389-846-2
〈静山社〉



キミの一步アフリカ
:ゾウを食べるにはひと口ずつ
味田村太郎 文
定価 1,980円(本体 1,800円)
ISBN978-4-251-09643-2
〈あかね書房〉

中学校の部



君の火がゆらめいている
落合由佳 作
定価 1,650円(本体 1,500円)
ISBN978-4-06-541452-1
〈講談社〉



チーム・テスならだいじょうぶ
カービー・ラーソン&
クイン・ワイアット 作
杉田七重 訳
定価 1,870円(本体 1,700円)
ISBN978-4-7902-3446-3
〈鈴木出版〉



リュウグウの砂に挑む
:チームで小惑星のサンプルを分析
伊藤元雄 著
定価 1,760円(本体 1,600円)
ISBN978-4-7743-3447-9
〈くもん出版〉

高等学校の部



スイッチ！
藤ノ木 優 著
定価 1,980円(本体 1,800円)
ISBN978-4-19-866075-8
〈徳間書店〉



ノアハム・ガーデンズの家
ペネロピ・ライヴリー 著
斎藤倫子 訳
定価 1,980円(本体 1,800円)
ISBN978-4-902257-48-9
〈ゴブリン書房〉



平和のうぶごえ
:「原爆の子」として生きた80年
早志百合子 著
定価 2,420円(本体 2,200円)
ISBN978-4-620-32839-3
〈毎日新聞出版〉

読書感想文コンクール

◆応募における注意事項◆

- ① 読書感想文応募要項とQ&Aをよく読んで、応募してください。
よい作品にするためのヒントがたくさん書かれています。(題名を工夫する。感動と変容を書く。文字数は規定数いっぱいを書く等…)
- ② さいたま市は、原稿用紙 B4サイズと規定されています。

3年生以上は400字詰めですが、1・2年生は240字詰めのものを使いましょう。
- ③ 原稿用紙1枚目の右側枠外に、自由か課題、題名、学年、名前を書き、右下欄外に、書名、著者名、出版社名を書きます。
- ④ 作品は二つ折りにし、応募要項を作品の右上重ねてクリップで留めます。
- ⑤ 校内締め切りは8月26日(水)、始業式の日(厳守)です。忘れずに担任の先生に提出しましょう。

応募票クリップ止め

原稿用紙の1枚目の1行目から本文を書く。
作品に表紙は不要です。

作品は二つ折りしたものを重ねて、応募票とともにクリップでを止めてください。

『書名』
著者名(出版社名)

どちらの内容も梓
外余白部に記入

『西の魔女が死んだ』
梨木果歩(新潮文庫)

課題・自由のどちらか
「感想文の題名」
学年 名前

自由 「自分の舟」

六年

○○○○

地方審査によつては、応募要項のほかに規定を設けていて、本応募票が必要ない場合や別の応募票が必要な場合があります。必ず「在籍校」にご確認ください。

1. この応募票は応募者本人、保護者が記入してください。
2. わかりやすく措きで記入し、右肩をとしてください。
3. 「対象図書」欄は対象図書を特定するため、もれなく記入してください。審査会では対象図書を参照します。
4. 記入もれや、誤った情報は審査ができない場合がありますので、正確に記入してください。
5. 応募作品・題名・対象図書名、および応募者氏名・学校名・学年は、公表することがあります。ご了承ください。

西勢底

課題読書
自由読書
(○で聞んでも可い)

感想文の題名			
所 属	学 校 名 (ふりがな)	埼 玉 都 市 部 さいたま さいたま市立 いつ しばかわしょう 芝 川 小 学校	
	学 校 所 在 地 ・ 担 当 者 名 (電話番号は市外局番から記入してください)	(〒330-0834) (電話 048-644-7544) (所在地 埼玉県さいたま市大宮区天沼町2丁目1077番地) (担当者名 森 麻美) (E-mail shibakawa-e@saitama-city.ed.jp)	
応募者	部・学年	小低・小中・小高・中学・高校	学 年 年
	(ふりがな) 氏 名	()	生年月日・年齢 ※高年生のみ記入 年 月 日生 (歳)
対象図書 (読んで本)	書 名 ※タイトルも必ずご記入ください		
	著者・編者・訳者・画家		
	シリーズ名・文庫名		
	発行所・発行年	発行所	発行年
定価・大きさ・ページ数	定価	円(本体 円) 大きさ 縦の長さ cm	ページ数
感想文執筆に際し参考にした資料の有無 (どちらかを○で囲んでください)		有 ・ 無	
(参考にしたもののタイトルやWebアドレス等を具体的に記入してください)			
応募作品と応募票に記入した情報を公表することがあります。すべてご同意いただいたうえで、チェック ☒ を入れてください。			
☐ 了承します			

※点線で切り取って作品に添付してください。
※本票はA4用紙で印刷されることを想定して作成しています。



題名は「〜を読んべい」は
できるだけさけましょう。
地方審査によっては、応募要項のほかに規定を設けていて、
本応募票が必要ない場合や別の応募票が必要な場合があります。
必ず在籍校にご確認ください。

記入前にご確認ください

- この応募票は応募者本人、保護者が記入してください。
- わかりやすく楷書で記入し、作品の一番上に貼付し、右肩をどじてください。審査会では対象図書を参照します。
- 「対象図書」欄は対象図書を特定するため、もれなく記入してください。審査会では対象図書を参照します。
- 記入もれや、誤った情報は審査ができない場合がありますので、正確に記入してください。
- 応募作品・題名・対象図書名、および応募者氏名・学校名・学年は、公表することがあります。ご了承ください。



読むこと、書くこと、自分を知ること。
第70回 青少年読書感想文
全国コンクール

応募票

※提出は在籍校へお願いします

応募区分	課題図書 自由読書 (○で囲んでください)
------	-----------------------------

感想文の題名

所 属	学校名 (ふりがな) 学校所在地・担当者名 (電話番号は市外局番から記入してください)	都道府県 市町村 立 部 区 学校
応募者	部・学年 氏名 (ふりがな) 氏名	小低・小中・小高・中学・高校 学年 生年月日・年齢 ※高校生のみ記入 年 月 日生(歳)
対象図書読んだ本	書名 ※サマネイルも必ずご記入ください 著者・編者・訳者・画家 シリーズ名・文庫名 発行所・発行年 定価・大きさ・ページ数	発行所 定価 円(本体 円) 大きさ 縦の長さ cm 発行年 初版発行年 ページ数
感想文執筆に際し 参考にした資料の有無 (どちらかを○で囲んでください) 有・無 ←「これぞに」→ 応募作品と応募票に記入した情報を公表することがあります。 すべてご同意いただいたうえで、チェック ☒ を入れてください。 ☐ 了承します		

はきり分かりやすく記入、
鉛筆の場合濃く書く。
奥付を見て正確に。
書いていないと出品できません。

どちらかに丸をつける

記入しない

※点線で切り取って作品に添付してください。
※本票はA4用紙で印刷されることを想定して作成しています。